



## 『生涯投資家vs生涯漫画家 世界で一番カンタンな投資とお金の話』



数あるビジネス書や経済小説の中から、M&A編集部がおすすめの1冊をピックアップ。M&Aに関するものはもちろん、日々の仕事術や経済ニュースを読み解く知識として役立つ本を紹介する。

『生涯投資家vs生涯漫画家 世界で一番カンタンな投資とお金の話』 村上 世彰・西原 理恵子 著  
文藝春秋刊

あっても困らないものいえば、真っ先に思い浮かぶお金。誰だって懐具合は温かい方がいいに決まっている。もちろん、ため込むだけではなく、生きたお金の使い方をしたい……。そんなお金との付き合い方について、「生涯投資家」と「生涯漫画家」を自任するその道の練達が軽妙なテンポで大まじめに、時にきわどく、語り尽くす。

村上世彰さんは2000年代前半、村上ファンドを率いて日本中に旋風を巻き起こした。通産省（現経産省）の元官僚。今もモノ言う株主として「日本企業のあるべき姿」を求めて戦っている。かたや、サイバラこと、西原理恵子さんは「ぼくんち」「毎日かあさん」などの代表作で親しまれる個性派の人気漫画家。

2人に共通するのは大の“お金好き”という点。もっとも、村上さんは「投資エリート」とするならば、西原さんは「投資シロート（素人）」。

村上さんは小学3年生の時から株式投資を始め、お金の特訓を受けてきた。持論は「稼いで貯めて回して増やす」。一方の西原さんは本業の漫画で財をなすものの、実は投資（ギャンブルを含めて）に関しては負け続けてきたという。麻雀で何千万円も持っていかれ、FX（外国為替証拠金取引）でも大損を経験しているというのだ。

本書の前半では投資とギャンブルの違い、ギャンブルが儲からない理由、「期待値」をもとにした銘柄選びのコツ、リスク分散の心構え、損切りのタイミング、仮想通貨の将来性などについて、村上さんが西原さんに手ほどきする。

後半がいわば、実践編。村上さんのすすめで、西原さんが21歳の息子と親子2人で株式投資に挑戦する。まず、証券会社に口座を開設。手始めに、西原さんは日経225、息子はゲームソフトとラーメン店の株を購入した。

ところが、買ったとたんに株価が下落し、波乱含みで株式投資がスタートする。村上さんは「8勝2敗なら御の字。場合によっては5勝5敗でもいい」とあくまで冷静。トータルとしてどれだけ勝ったかが投資にとって重要だというのだ。

村上さんが「株をやり始めると、世界経済の話がちょっとずつ気になってくるでしょう」と言えば、西原さんの答えも「確かにそうなっている」。実際、息子にも変化が出て、トランプ大統領のニュースとか、CNNを見るようになったという。

「老後2000万円不足」問題が騒々しい昨今だが、本書にはお金と仲良くするヒントが随所に盛り込まれている。老後にまだ縁遠い若い人にぜひ手に取ってほしい一冊。西原さんならではのイラストも大いに楽しめる。（2019年6月発売）

文：M&A Online編集部